

“諸地域” 楽しい授業プラン



I 本書を活用し、「アクティブ・ラーニング」を実現するために

→導入資料「?と!をみつけよう」および、まとめのワーク「グループでの話し合い」が効果的です。

<4人グループで話し合うスタイル> (男女各2人, 市松模様の配置がベストですが, 3人でもよい。)

1. グループ内で、「わからないこと」を互いに聞き合う。

初めから自分の考えを説明するのではなく, 自分や級友がもつ, 解決しなければならない「わからないこと」を聞き(聴き)合う。

2. 自分の考えの根拠を示して解決に向かう

資料集にある資料や, 自分の体験などを, 「わからないこと」を納得し, 解決するための根拠としながら話し合いを進める。

3. 自分たちの今の生活にも結びつけながらまとめる。

<先生の準備と指導のヒント>

① 授業開始8分で「第一のグループ活動へ」

作業でも課題解決のスタートでも, 8分以内に開始すると, 意欲的な取りかかりが生まれます。

② 1つの単元で, 課題(テーマ)が2つあると授業がアクティブになる

1つ目…「共有の課題」: 授業序盤で必要となる, 指導要領に則った基本的な課題

2つ目…「ジャンプの課題」: 授業終盤で効果的な, 難易度の高い一見解決は困難だと思える内容

⇒この2つの課題があると, 生徒は真剣に追究し, 説明しようとしています。

③ 授業の終わりに, 「共有の課題」が解決できたか確認する

生徒に追究の満足感が生まれます。

<具体的な追究の手順>

1. 「共有の課題」を明確に示す: 板書や電子黒板で「共有の課題」をまず明確に示す。

2. 「共有の課題」解決のために, 調査をする。

(1) 教科書を一文読みする(グループ内で, 一人一文ずつ交代で読み, 読めない漢字や意味のわからない言葉を無くす)。

(2) 課題解決のために教科書や資料集を調べる。その中で発見したことや, 「わからないこと」をグループ内で聞き(聴き)合う。

(3) 「共有の課題」について, グループなりに結論を出して, 他の級友のために説明準備をする(疑問はそのままに残しておく)。

(4) クラス全員が納得するまで質問し合う。

3. 「共有の課題」に納得したら「ジャンプの課題」に取り組む。

(1) 根拠をもとに自分の考えをはっきりさせる。

(2) 自分の考えを持たなくても, 人の考えをよく聞いて, 賛成/反対をする。

4. 「ジャンプの課題」を皆で考えたら, もう一度「共有の課題」を見直して補足する。

II 「共有の課題」と「ジャンプの課題」の例

【世界のさまざまな地域「世界各地の人々の生活と環境」「世界の諸地域」】

※（ ）内は、『グラフィックワイド地理』該当ページです。

単 元	◇「共有の課題」	◆「ジャンプの課題」	
世界各地の人々の生活と環境	気候・衣食住 (世 P.22～37)	◇【毎時間】東京と各気候帯の雨温図を比べて「東京に比べると…」という文章で違いを説明しよう。	◆【毎時間】雨温図から読み取った違いをもとに、私たちの生活とどのような違いがあるか説明しよう。
	宗教 (世 P.38～41)	◇世界の三大宗教の共通点と相違点を、まとめて説明しよう。	◆「神」はなぜ存在すると思うか、根拠をもとに考えを交換しよう。
【まとめの課題】 世界各地から、あなたの家に中学生をホームステイに招くとしたら、どんなことに注意した方がよいか、できる限り詳しく説明しよう。			
世界の諸地域 アジア	指導要領解説 “なぜアジアでは人口が急増し、民族、文化が多様なのか” →アジアの人口問題の出現や多様な民族構成、文化形成の背景が分かり、アジアの地域的特色の理解につながる。		
(1) アジアの人口	◇世界の人口の 60%がアジアに住んでいるのはなぜか、予想しよう。(世 P.46～)	◆米を生産すると人口が増える理由を説明しよう。(世 P.46～47)	
(2) アジアの工業発展 (東アジア・アジア NIES・東南アジア・南アジア)	◇世界のパソコンの 100%がアジア(中国)で生産される理由を説明しよう。 (世 P.50～)	◆アジア各国の賃金を比較し、製造業生産の強みを説明しよう。 (世 P.53,55,61 など)	
(3) 資源豊かな西・中央アジア	◇西・中央アジアの輸出品の特徴を説明しよう。 (世 P.58～59)	◆日本の輸出品と比較し、その違いを説明しよう。 (世 P.58～59)	
ヨーロッパ	指導要領解説 “EU 加盟国では、政治・経済的統合が人々の生活どのように影響を与えているか” →EU を構成する国の相互関係や域内の地域間格差の実態が分かり、ヨーロッパに地域的特色の理解につながる。		
(1) ヨーロッパの自然と農業	◇パリ、ローマ、ヘルシンキ、青森の雨温図を比較して違いを説明しよう。 (世 P.62)	◆高緯度にもかかわらず温暖な気候である理由を説明し、そこでの農業経営の特徴を合わせて説明しよう。 (世 P.66～67)	
(2) EU	◇各国の結びつきを強める EU の良さを説明しよう。 (世 P.69)	◆EU 加盟国の、10 倍以上の国民所得の差をどのように縮小するか提案しよう。(世 P.70)	
アフリカ	指導要領解説 “第一次産品にたよるアフリカ諸国の人々は、どのような生活をしているのか” →アフリカの脆弱な経済基盤とその理由が明らかになり、アフリカの地域的特色の理解につながる。		
(1) アフリカの産業と新たな開発	◇アフリカ諸国の貿易相手国と輸出品目の特色を説明しよう。 (世 P.77～78)	◆貿易によりより多くの収入を得るためには、どのような工夫が必要か提案しよう。(世 P.78～79)	

北アメリカ	指導要領解説 “なぜアメリカやカナダは農業生産力だけでなく工業生産力も高いのか” →巨大な生産と消費の人々の生活様式が分かり、北アメリカの地域的特色の理解につながる。	
(1) 北アメリカの農業生産	◇アメリカの農業生産量が多い理由を気候や農業経営から説明しよう。(世 P.82～83)	◆世界に占める農業生産割合より、輸出割合が多いことを説明しよう。(世 P.82～83)
(2) 北アメリカの先端技術産業	◇アメリカの工業の歴史を説明しよう。(世 P.84)	◆アメリカで先端技術産業が盛んになった理由を説明しよう。(世 P.84～85)
南アメリカ	指導要領解説 “なぜアマゾンの森林が減少し、サトウキビ栽培が増加しているのか” →環境問題やエネルギー問題を地域に即してとらえられ、南アメリカの地域的特色の理解につながる。	
(1) 環境保全と開発	◇各国の輸出品目から各国の主要な産業を説明しよう。(世 P.92～93)	◆環境保全の必要がありながら、開発を進める理由を説明しよう。(世 P.91～93)
オセアニア	指導要領解説 “なぜオセアニアは、ヨーロッパに代わってアジアと結び付きが強まってきたのか” →オーストラリアやニュージーランドがアジア諸国と結び付きを強め、多文化社会が進むオセアニアの人々の生活の様子が明らかになり、オセアニアの地域的特色の理解につながる。	
(1) オーストラリアの貿易の変化	◇1950年代と2010年代の貿易相手国を州別に集計し、その変化と理由を説明しよう。(世 P.97)	◆鉱産資源を輸出の中心としているオーストラリアは、今後 APEC や TPP の結び付きの中でどのような貿易をすればよいと思うか、提案しよう。(世 P.98～99)

フラスα

「世界の諸地域」の学習においては、教科書とは学習順序を変えて指導する方法も考えられます。

比較的身近に感じやすい北アメリカを初めに学習し、ヨーロッパ→アフリカ→南アメリカ→オセアニア（アジアとの結び付きが強い）→アジア（広く複雑なアジアを1学年終盤で学習）→→（アジアの流れから）「日本」の分野へ。

というように、学習内容のつながりや生徒の興味・関心などから学習順を工夫することが可能です。



【日本のさまざまな地域「日本の諸地域」】

※（ ）内は、『グラフィックワイド地理』対応ページです。

※各地方と「考察の仕方」の対応は、『グラフィックワイド地理』において「テーマ」として扱っている組み合わせです。

指導要領で提示されているものではありません。

単 元	◇「共有の課題」	◆「ジャンプの課題」
日本の諸地域 九州地方 “環境問題や 環境保全を中 核とした考 察”	指導要領解説 地域の環境問題や環境保全の取組を中核として、それを産業や地域開発の動向、人々の生活などに関連付け、持続可能な社会の構築のためには地域における環境保全の取組が大切であることなどについて考える。	
	◇シラスや赤土など、自然環境に対する人々の対応をまとめよう。 (日 P.44～45,48)	◆九州地方で行われている「持続可能な社会」への取り組みの特徴を説明しよう。 (日 P.44～45,47～48)
中国・四国地方 “他地域との 結び付きを中 核とした考 察”	指導要領解説 地域の交通・通信網に関する特色ある事象を中核として、それを物資や人々の移動の特色や変化などに関連付け、世界や日本の他の地域との結び付きの影響を受けながら地域は変容していることなどについて考える。	
	◇中国・四国地方の交通網発達の様子を、人や物の移動などから説明しよう。 (日 P.52～53)	◆交通網の発達が地域に及ぼした影響とこれからの地域発展可能性について説明しよう。 (日 P.52～53 など)
近畿地方 “歴史的背景 を中核とした 考察”	指導要領解説 地域の産業、文化の歴史的背景や開発の歴史に関する特色ある事柄を中核として、それを国内外の他地域との結び付きや自然環境などに関連付け、地域の地理的事象の形成や特色に歴史的背景がかかわっていることなどについて考える。	
	◇京都市の観光収入が他の地域より圧倒的に多いのはなぜか説明しよう。 (日 P.60～61)	◆生活の利便性を求める動きと、景観条例など古い町並みの保存をしようとする考えの両立にはどんな考えが必要か説明しよう。 (日 P.60～65)
中部地方 “産業を中核 とした考察”	指導要領解説 地域の農業や工業などの産業に関する特色ある事象を中核として、それを成立させている地理的諸条件と関連付け、地域に果たす産業の役割やその動向は他の事象との関連で変化するものであることなどについて考える。	
	◇北陸・中央高地・東海の工業を比較し違いを説明しよう。 (日 P.69～73)	◆北陸・中央高地・東海の気候と農業の特色をまとめ、人々がどのように工夫して生産しているか説明しよう。(日 P.68,70,72)
関東地方 “人口や都 市・村落を中 核とした考 察”	指導要領解説 地域の人口の分布や動態、都市・村落の立地や機能に関する特色ある事象を中核として、それを人々の生活や産業などに関連付け、過疎・過密問題の解決が地域の課題になっていることなどについて考える。	
	◇中枢機能が集まるために起こる人口集中の様子と、周辺の人口の移動について説明しよう。 (日 P.75～77)	◆巨大な人口が集中することで起こる関東地方の産業の変化を説明しよう。 (日 P.78～79)

東北地方 “生活・文化 を中核とした 考察”	指導要領解説 地域の伝統的な生活・文化に関する特色ある事象を中核として、それを自然環境や歴史的背景、他地域との交流などに関連付け、近年の都市化や国際化によって地域の伝統的な生活・文化が変容していることなどについて考える。 ◇東北地方に残る伝統的な生活・文化をまとめ、発生の理由を説明しよう。 (日P.84～85)	◆東北地方の人々は伝統的な生活・文化をどのように守ろうとしているか説明しよう。(日P.84～85,89など)
北海道地方 “自然環境を 中核とした考 察”	指導要領解説 地域の地形や気候などの自然環境に関する特色ある事象を中核として、それを人々の生活や産業などに関連付け、自然環境が地域の人々の生活や産業などと深い関係をもっていることや、地域の自然災害に応じた防災対策が大切であることなどについて考える。 ◇北海道の農業の特色を、冷涼な気候、大規模な耕地、大消費地から遠いなどの言葉を使って説明しよう。 (日 P.92～94)	◆北海道で行われている防災対策をまとめ、特に自分達が生活する地域でも重要だと考えられることを説明しよう。(日 P.94) (北海道だけでなく、日本各地で行われている防災対策もあわせてまとめられるとよい。)



ヨーロッパ州

【第1時】 ヨーロッパを概観しよう

※概観…単元の学習課題となりそうな事項を、既習の内容と比較しながら選び出す。

先生：発問1「資料集の世界 P.62 を開こう。ワーク1で、地図帳や教科書を見て自然地名を書き入れよう。そのときに、地形を利用したと思われる国境を探し、蛍光ペンでなぞってみよう。」(アジア州を先に学習した場合、世界には地形を利用した国境が多いこと、北アメリカ州を先に学んだ場合は、購入や譲渡による人為的境界もあることが理解できる。)

先生：発問2「地形を利用したと思われる国境線はどこかな？」

生徒1：「フランスとスペインの国境です。ノルウェーとスウェーデンの国境の3分の2です。イタリアとスイスの国境です。」

先生：発問3「ずいぶん少ないね。どうしてだろう？」

生徒2：「国どうし仲が悪かったから。／言葉が違うから。／わからない。」

先生：発問4「じゃあ、次の時間にそれを調査しようか。」

次に、気温と降水量を確認しておこう。日本の青森とほぼ同緯度なのはマドリードで、ローマ、パリ、ロンドンはそれより高緯度だね。雨温図をみて、不思議だと思うことを挙げて調べてみよう。」

生徒3：「どの地点も平均気温が青森より高く、降水量が少ないと思います。」

生徒4：「P.62の『自然・気候』のところを読むと、ヨーロッパは位置的には高緯度にありながら、暖流の北大西洋海流上を偏西風が吹くからだと説明できます。」

先生：発問5「なるほど。では、ヨーロッパではどんな農業が行われていそうかな。食べ物から考えてみよう。」

生徒5：「降水量から考えると、小麦は栽培できそうです(アジア州を学んだ生徒は、「米は無理だな」と考える)。ヨーロッパの食べ物といえば、パスタ、フランスパン、ハンバーグ、フランクフルトが浮かびます。」

先生：発問6「では、工業は？工業製品を思い浮かべてみよう。ヨーロッパ製の自動車やブランド品で知っているものはあるかな？」

生徒6：「BMWやVOLVO、シャネルの香水、バーバーリー！」

先生：発問7「ヨーロッパの製品ってどんな印象や、イメージがある？」

生徒7：「高級な感じ！」

先生：「世界 P.68 の工業のページも先に少し見てみようか。工業も楽しみだね。」

↓世界 P.62



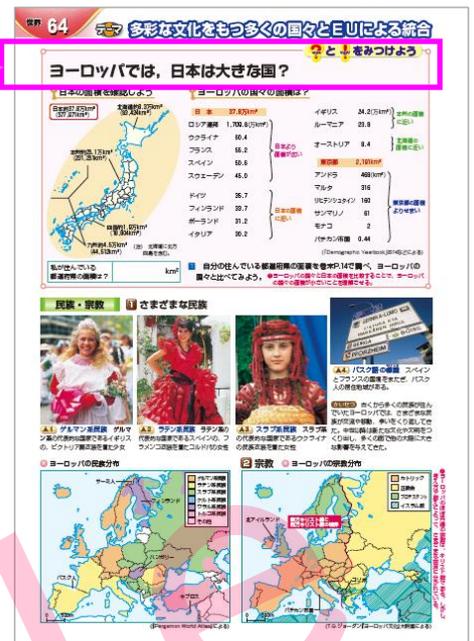
↑世界 P.68

(注) 授業時数や学習内容の配分は、教科書の年間指導計画と一致するものではありません。適宜変更してご活用ください。

【第2時】ヨーロッパの国々の面積

↓世界 P.64

先生：発問1 「今日は、ヨーロッパの国境と面積に着目します。資料集世界 P.64 の『?と!』を考えてみましょう。“ヨーロッパでは、日本は大きな国?”とは、どういう意味だろう?



この『?と!』を紐解くために、「白地図作業帳」の世界 P.6 を開きましょう。作業1を行って、驚いたことや気づいたことをグループでまとめてみてください。45か国あるヨーロッパの国々と、日本の面積を比べてみましょう!

生徒1: 「日本より面積の広い国は5か国しかありません。面積の小さな国が多いのはなぜだろう?と疑問に思いました。」

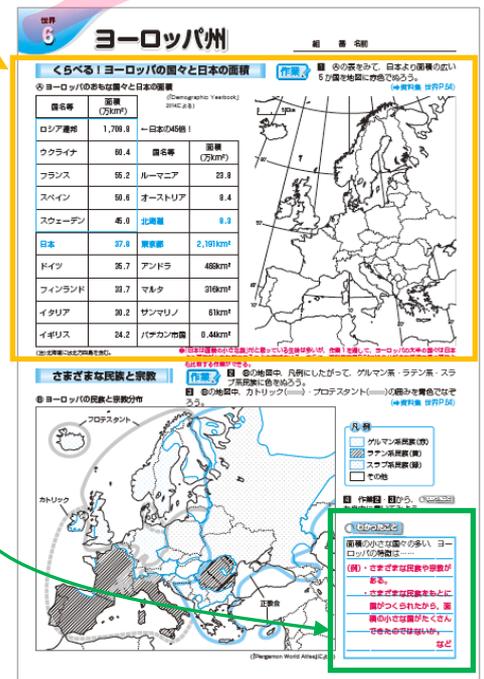
先生：発問2 「言葉や生活の仕方、宗教の違いなどによって、人のまとまりができるね。また、歴史的にどのように支配されたかによっても、まとまりや分断が生まれる。次に、作業帳 P.6 の作業2と3をやってみよう。」

生徒2: 「ぴったりではないけれど、民族と宗教の違いが大きなまとまりとして国境に重なるところが多いように思います。これだけ民族や宗教が入り組むと、一つひとつの国は狭くなるな。」

先生：発問3 「ここで、資料集の世界 P.14~16 に戻るよ。P.14にある「E 十字架チーム」の国旗と、P.15 空所⑥・⑦の国旗、P.16 のヨーロッパの国々の国旗を見比べてみよう。何か気づくことはある?」

生徒3: 「キリスト教・十字架、三色旗など、同じデザインの括りの中でもそれぞれ微妙に違いがあります。地形や宗教・民族などの違いが絡み合っって国が生まれた結果、面積が狭い国が多くなったんだと思います。」

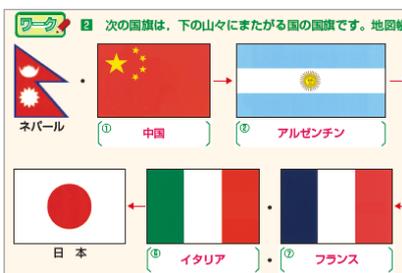
↓「白地図作業帳」世界 P.6



↓世界 P.14



↓世界 P.15



←世界 P.16



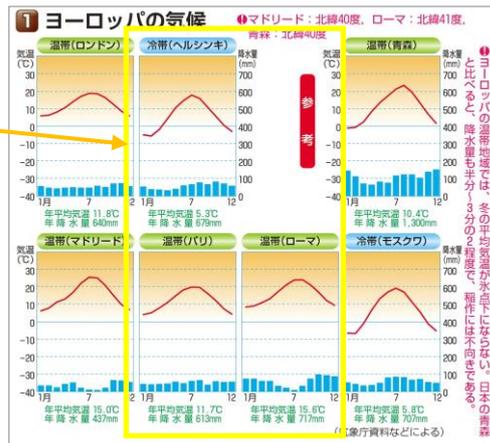
★「白地図作業帳」では、「?と!」をみつけよう」の前段階となる作業や、「?と!」の問いを探究するための作業を設定しています。作業に取り組むことで、「なぜその図やグラフを学習するのか?」が明確となり、主体的な学習へと導きます。

【第3時】ヨーロッパの農業

先生：発問1 「今日は、ヨーロッパの気候と農業について考えてみよう。まず、ヨーロッパは温帯で、西岸海洋性気候と地中海性気候があって、冷帯（亜寒帯）もある。資料集世界 P.62 のパリ、ローマ、ヘルシンキの雨温図で、気候の違いを比較してみよう。」

生徒1：「年降水量は、3つの都市とも600～700mm前後です。パリとヘルシンキは夏が多めで、ローマは夏少ないと思います。年平均気温は、ローマが日本に近く、パリとヘルシンキは低いです。冷帯（亜寒帯）のヘルシンキは、3か月も氷点下が続きます。」

先生：発問2 「それでは、それぞれの気候でどんな農業が行われているか、(1)西岸海洋性気候では、…の農業が行われている。(2)地中海性気候では、…の農業が行われている。のように、説明してみてください。」



↑世界 P.62

《生徒の活動：4人グループで》

- ①教科書一文読み（句点まで一人が読んで、交代する）
- ②資料集の内容をまとめる

例) 西岸海洋性気候は混合農業と酪農、地中海性気候は地中海式農業だ。(アジア州を先に学んだ場合、降水量による作物の違い、北アメリカ州を先に学んだ場合は、適地適作で大規模機械化農業ではないことにも気づける。)

ヨーロッパでよく食べられているハンバーグステーキ、チーズフォンデュ、ピッツァ。使われている材料を考えると、ヨーロッパの農業の特色が見えてくる。

★付録 教師用 DVD
「授業で見せたい動画集」収録関連動画
「チーズと食文化」

↓世界 P.66・67

【第4時】ヨーロッパの工業

先生：発問1 「今日は、ヨーロッパの工業についてみていきます。まず、資料集の世界 P.68 を開きましょう。私たちの身の回りには、ヨーロッパで作られた多くの工業製品があることは、以前の授業でも触れたね。ヨーロッパの工業都市・工業地域は、どんな所から発達したのか考えてみよう。」

先生：発問2 「11の地図で、■のマークは何を表していますか？」

生徒1：「炭田のあるところです。」

先生：発問3 「次に、「白地図作業帳」の世界 P.7 を開いて、作業4で工業地域に色を塗ってみてください。色を塗ってみて、何か気づいたことはありますか？」

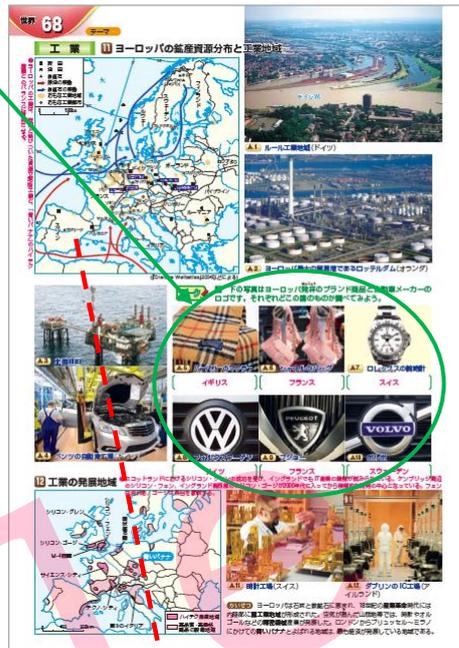
生徒2：「工業地域と炭田が同じような場所に分布していると思います。」

先生：発問4 「ヨーロッパの工業都市・工業地域は、どんな所から発達したのか見えて来たかな？『工業地域』『炭田』『鉄鉱石』『河川』の言葉を使って、ヨーロッパの工業の特色を説明してみよう。」

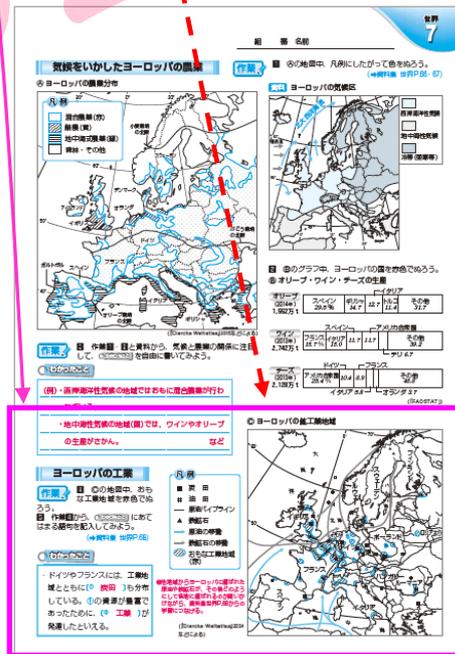
生徒3：「ヨーロッパは石炭などの資源が豊富です。炭田のあるところに工業地域が発展したのだと思います。」

生徒4：「資料集の地図を見ると、鉄鉱石がスウェーデンなどから船で運ばれてきています。ヨーロッパには大きな河川がたくさんあるので、ヨーロッパに到着した鉄鉱石を、河川を使って各地へ運ぶことができます。それも、工業地域が発達した理由だと思います。」

↓世界 P.68



↓「白地図作業帳」世界 P.7



【第5時】EUの発展と課題

先生：発問1 「ヨーロッパ45か国中、28か国が加盟するEUの魅力は何だろう？」

生徒1：「医師や教員などの資格・免許が共通で、国境を越えて働くことができます。ユーロという共通通貨があるので便利です。貿易で関税がかかりません。」

先生：発問2 「次に、EUがどれほどの規模か、資料集世界P.70¹⁸EUとおもな国の比較をみてみよう。」

生徒2：「すべての項目で日本を上回っています。特に貿易額はすごい。域内貿易もとても多いです。」

先生：発問3 「では、どうしてギリシャやイギリスでEUを離脱しようとする動きがあるのだろう。世界P.69¹⁶統一通貨「ユーロ」や世界P.70²⁰EU域内の経済格差を調べて、EUの問題点を探そう。」

生徒3：「イギリスはユーロを導入していません。1人あたりの国民総所得は、ギリシャは少ない。失業率は、ギリシャがとても高いです。」

先生：「イギリスのユーロ非導入に影響を与えたのが、「鉄の女」と呼ばれたマーガレット・サッチャー元首相の存在です。サッチャー元首相は、1975～90年の長期にわたって首相を務めた強力なリーダーです。新自由主義を基本とする考え方は「サッチャリズム」と呼ばれて、今日のイギリスにも深く浸透しています。

欧州統一通貨を導入しないことは、サッチャリズムの柱の一つでした。サッチャー元首相は、「国の通貨の管理は、選挙で選ばれた一国の政府が行うべきだ」と、ヨーロッパの通貨統合に真っ向から反対しました。

また、イギリスのユーロ非導入には、人々の国民感情、「ポンドへの愛着」も大きく影響していると言われています。ポンドのお札には、表面にエリザベス女王の肖像が描かれています。かつて、世界の7つの海を制覇し、アフリカやアジア諸国、アメリカを次々と植民地にした大英帝国。18世紀半ばから、世界に先駆けて産業革命も起こしました。ポンド紙幣には、その歴史が刻まれているのです。

ポンドは、英国民のプライドの象徴と言えます。また、イギリスが島国で、ヨーロッパ諸国と適度な距離を保っているという地理的な背景もあります。『イギリスはヨーロッパではなく、あくまでイギリス』という意識が強いのです。」

生徒4：「さまざまな経済状態や、歴史を持った国どうしがまとまることの難しさを感じます。」

先生：発問4 「例えば、EU加盟国間の、1人あたりの国民所得の10倍以上の差を縮小するにはどうすればよいか、自由に提案してみよう！」

↓世界 P.69



↓世界 P.70

